

作業療法室の紹介



一般財団法人黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

目次

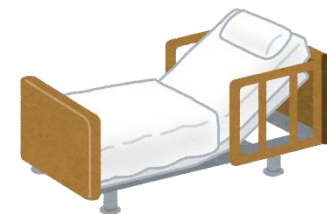
- 当院の作業療法について
- 作業療法室の教育体制
- スタッフの声
- 室長から

当院の作業療法について①

➤ 脳卒中急性期の作業療法

医師の指示のもと、入院初日からADLの再獲得に向けて介入しています。脳卒中急性期のリスク管理の知識が必要ですので、回復期病棟で経験を積んだ作業療法士を配置し、患者様やご家族の不安が少しでも軽減できるように努めています。

また、回復期病棟でリハビリテーションを継続される患者様の場合、環境変化が患者様の自立を妨げないよう回復期病棟のスタッフと連携しています。



➤ 脳卒中回復期の作業療法

ICFの『参加・活動』の拡大を目指して、自分でできることが増やせるよう作業療法を計画・実行しています。患者様に合った病室の環境設定はもちろん、自宅など退院先の環境を視野に入れた動作練習を行います。必要に応じて他職種と協力しながら家族へ介助のアドバイスをを行い、安心して退院を迎えられるように努めています。



当院の作業療法について②

➤ 訪問・外来リハビリテーション

退院後にリハビリテーションが必要な方に対し、医師の指示のもと訪問や外来リハビリテーションを実施しています。患者様が退院前する前に入院中の担当リハスタッフと連携し、安心して在宅生活が送れるよう支援しています。

➤ 心臓リハビリテーション

『心臓リハビリテーション指導士』として、作業療法士1名が在籍しています。当院の“心臓リハビリテーションチーム”の一員として多職種と一緒に活動しています。



➤ 麻痺の改善に向けた治療

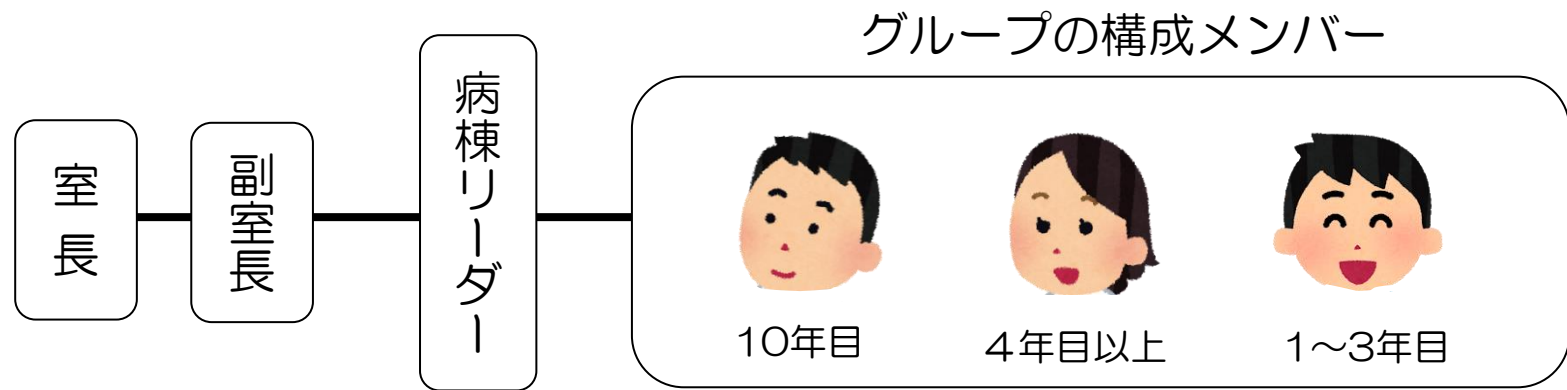
上肢の麻痺に対しては、促通反復療法（川平法）、電気刺激療法、CI療法、上肢用ロボット型運動訓練装置（ReoGo-J）などを取り入れています。

スタッフの技術の維持・向上のため、計画的に他施設での研修や院内での実技練習に取り組んでいます。

作業療法室の教育体制①

作業療法室では室長・副室長が全体の指揮を執り、
各病棟のリーダーと連携した教育体制をとっています。

★回復期病棟の一例★

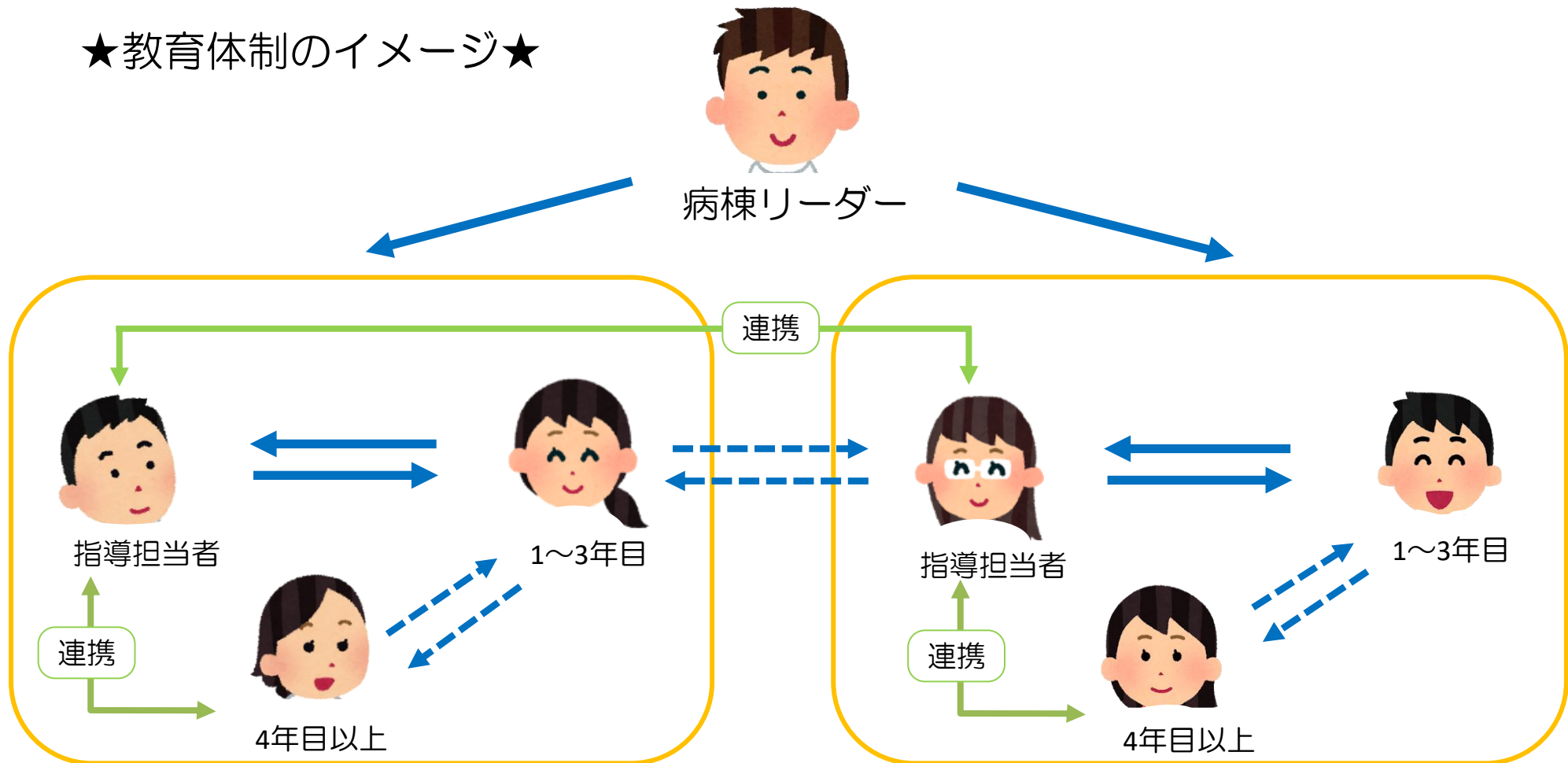


回復期病棟では病棟リーダーの指揮のもと、グループが5つあります。
グループの構成は、新人を合わせて3~4名の配置が基本です。
人員配置は理学療法室と連携して決定しています。

作業療法室の教育体制②

指導担当者が1～3年目の教育を担当しますが、
4年目以上のスタッフとも連携して教育をサポートします。

★教育体制のイメージ★



作業療法室の教育体制③

自己評価表を使用して作業療法士として必要な技術を確認しています。
毎年個人目標を掲げ、自己研鑽のきっかけづくりと環境の支援をしています。

★評価項目の一例★

- ＜ステップ1＞ 社会人・職員・OTとして望ましい態度や行動をとることができる
- ＜ステップ2＞ 基本的な検査手技ができる（対象者の全体像を把握できる）
- ＜ステップ3＞ 対象者の全体像をまとめ、作業療法計画を立案・実施できる
- ＜ステップ4＞ カンファレンスで適切な報告ができる（予後予測を含む）
- ＜ステップ5＞ 退院に向けた準備ができる（家族指導・書類など）
組織の管理・運営について理解することができる
- ＜ステップ6＞ 指導ができる（後輩・学生）
- ＜ステップ7＞ 自分の考えをまとめて発表できる（学会・部署内の研修会など）

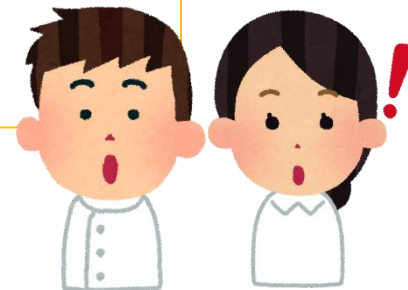


上記のステップごとに下位の評価項目があり、自己評価・他者評価を行っています。

作業療法室の教育体制④

作業療法室では、以下の勉強会等を企画し、スタッフの知識や技術の標準化に努めています。

1. 症例検討会
2. ADL動作分析の勉強会
3. 評価および訓練技術の獲得に向けた練習
4. 各種学会での演題発表者による予演会
5. 各種研修会・学会参加者からの伝達講習会
6. その他



作業療法室の資格取得への取り組み

現在、当院の作業療法士が取得または取得予定の資格は以下の通りです。

患者様へ質の高いリハビリテーションを提供するため、資格取得に向けたスタッフの意欲を支援しています。

心臓リハビリテーション指導士、NST 専門療法士、
回復期認定セラピストマネジャー、ケアマネジャー、
日本作業療法士協会 認定作業療法士



職員の声①

➤ 作業療法士 3年目

不安なことがあればすぐに先輩に相談できる環境のため安心して働くことができています。また、患者様から「よくなった」という声を聞く度にやりがいを感じています。

学会で演題発表した際は、準備等で先輩方から丁寧な指導を頂きました。その経験から自分のリハビリを見つめ直すことができ、提供する際の考え方や引き出しが増えたと感じています。今後はより自己研鑽し、質の高いリハビリを提供できるように頑張ります。



職員の声②

➤ 作業療法士 7年目

自分達が提供したリハビリにより、患者様の心身機能の改善がみられた時や患者様にとって価値のある作業活動の獲得に結びついた時にやりがいを感じています。

また、当院では学会発表や論文の投稿など研究活動に取り組むスタッフも多く、臨床で得た知識・技術を形にすることで、より多くの患者様に還元しています。

これからも目の前の患者様のために皆で切磋琢磨し、仕事に取り組んでいきます。



職員の声③

➤ 作業療法士 9年目

当院では脳血管疾患中心に整形疾患や内科疾患など様々な患者様の急性期から在宅までの一連の作業療法について経験することができます。加えて、早朝や就寝前の時間帯における実場面でのADL訓練も実施しており、患者様の生活動作の改善に向けて密接に関わることができ、とても勉強になります。

これからも身体機能の改善だけでなく、患者様自身がその人らしい生活が送れるように関わっていきたいです。



職員の声④

➤ 作業療法士 15年目

私は現在、子育てをしながら働いていますが、育児休暇などの福利厚生が充実していることやリハビリの担当が複数担当制なので、急な休みにも対応できる体制となっており、子育て世代のスタッフにとってはとても安心して働ける環境となっています。

また、若手だけでなく全スタッフを対象にした勉強会も多く、スタッフ教育にも力を入れているので、自身の知識・技術面の向上に繋げることができ、教育体制の面でも整っている職場環境となっています。



“より質の高い作業療法”の提供を目指して

当院では急性期から回復期を經由し退院に至るまで、患者様やご家族とニードを共有し多職種で連携を図りながら、個別的なリハビリを提供しています。現在は退院後の支援についても取り組んでいます。また、研究活動も行っており、より質の高いリハビリの提供を目指し技術向上に励んでいます。

当院には70名以上のスタッフが在籍しており、教育体制にも力を入れていますので、新人でも安心して働ける環境です。意欲的で患者様に寄り添える方を募集しています。

私たちと一緒に患者様のその人らしい生活の

支援に貢献しませんか？

作業療法室長 住吉 佳奈子

